

はじめに 委員長よりメッセージ

はじめに

窮すれば変ず、変ずれば通ず…。

昔の哲人が語ったように、窮したときには変化が生じ、変化が生じたあとには次へと通じていくものである。しかし、毎年世界のどこかで発生する巨大地震や天変地異に対しては、備えがあるのと無いのでは、全く異なる結果をもたらす。しかも今日はグローバリゼーションの世の中であるから、新型インフルエンザの流行も地球の裏側で起きた出来事だろうと呑気に構えていたら3日後には日本に上陸して大騒ぎになった。

人、もの、情報を扱う博物館にとって、安心・安全の提供は基本原則である。基本原則は博物館関係者全員が理解し、基本に忠実になって実践しなければならない。いざという時は、全員でチームワークよく対処すれば被害も最小限に抑えられる。けれども、冷静になって我が国の現状を振り返ると、地域全体でチームワークを発揮するような協働システムはまだ確立されていない。この点が弱点であるから、博物館は関係者と役割分担を定め、地域の機関と一緒に安心して安全を確保していくべきであることは言うまでもない。

さて、私たちを取り巻く環境はリスクのオンパレードである。リスクの種類も多く、またその数も多い。そして次々とやって来る。そこで三年目になる今回の本報告書の第Ⅰ部は、「博物館におけるリスクマネジメントの体制整備」として、①博物館関係者の災害時の役割、②研修・訓練のヒント、③指定管理者制度を導入している博物館の災害対策、の三つの視点からまとめたものである。第Ⅱ部は感染症とその他リスク、第Ⅲ部は災害時に役立つ博物館ネットワークについてまとめた。お行儀よく机の上で学習することよりも、むしろ実践的な研修や訓練こそ必要である。第Ⅳ部は緊急対応ポケットメモを自分の館専用に作れるようにヒント集を掲載してあるので、ぜひ一度試みて頂きたい。

リスクの中で博物館業務を日々これ遂行していくことは、リスクとの闘いの連続である。もちろん一人で闘うのではなく、館全体で取り組むべきであろう。望ましくは地域全体でリスクマネジメントをこれから考えていくべきである。初心を忘れたときに、脅威は脅威となって博物館に牙をむく。言うは易し、行うは難しである。本書を最大限活用し、未来の人々のために文化遺産から脅威を取り除いていただきたい。

平成 22 年 3 月

「博物館における施設管理・リスクマネジメントに関する調査研究」検討委員会
委員長 水嶋英治